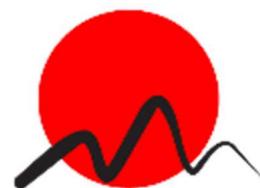


Slovenia Monthly June 2022

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2022年7月19日



～6月の主なポイント～

- 内政：ゴロブ新政権の発足
- 外政：ゴロブ首相、就任後初の外遊としてブリュッセルを訪問
- 経済：JBICとSID銀行（スロベニア輸出開発銀行）との覚書署名
コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業・トンネル開通式の開催
- 文化：リュブリャナにコンピューター・ミュージアムがオープン

政治

【内政】

●ゴロブ新政権の発足【1日】

1日、国民議会において新閣僚の承認にかかる投票が行われ、賛成53票、反対28票で承認された。新政権は当初、3名の無任所大臣を含む17名の大臣でスタートすることになるが、省庁再編についての法改正が行われ次第、拡大することになる。

ゴロブ首相は、本政権には、通常政権発足後の猶予期間とされる100日間はないものと考えており、そのため、閣僚メンバーは政治家と専門家の混合となっていると述べた。また、新型コロナウイルスの次の波が来ると言われる秋に向けて準備を行いつつ、食料価格及びエネルギー価格の高騰への対処が急務であると述べた。長期的には、ゴロブ政権は、グリーン改革、気候変動、医療制度・社会保険制度改革及び知識ベースのサービスに取り組む予定である。

●スロベニアにおける反体制側ベラルーシ人の拘留【3日】

ルカシェンコ・ベラルーシ大統領の体制に敵対するDzmitry Hleizer氏が国際逮捕状に基づいてスロベニアで拘留された。ポップTVによれば、Hleizer氏は4月下旬にスロベニアで逮捕されて以来拘留されている。

同氏は、2日にクラン地方裁判所で行われた審問の後、ベラルーシへの身柄引き渡しの可能性についての決定を待っている。

●中道左派政党の合併【8日、20日、27日】

8日、マリヤン・シャレツ・リスト(LMŠ)の党員は、自由運動党(GS)への合併をほぼ満場一致で承認した。また、アレンカ・ブラトウシェク党(SAB)の党員は、6月13日から15日にかけて行われた党大会において、GSとの合併を支持した。SABによると、大会に出席した党員の91.5%が合併に投票した。27日、GSは、LMŠ及びSABとの合併を90%以上の得票率で承認した。同3党の合併は7月前半に完了し、合併後最初の党大会は秋の地方選挙前に開催される予定。

●政府コミュニケーションオフィスの発表【8日】

政権交代により新しい所長を迎えた政府コミュニケーションオフィス(UKOM)は、RTVスロベニアのジャーナリストの業務を精査する報告書を今後作成しないことを発表した。さらに、スロベニア国営通信(STA)の社長とUKOMの前所長が2022年初頭に交わした契約に沿って、STAへの補助金を支払うことを決

定した。UKOMはまた、今後、ジャーナリストが政府の記者会見に直接出席できるようになるとした。

●政府、新型コロナウイルス対策のための規則違反による罰金の法的根拠を確認【9日】

政府は司法省と内務省に対し、新型コロナウイルス封じ込め措置の違反に対する個人に対する手続きで引用された法的根拠の分析を行い、罰金が不当または違法であった可能性があるかどうかを確認するよう命じた。また、ポプナル内相は、2021年12月に前政権が行った反政府集会の取り締まり費用の補償を請求する法的措置に関する決定をすべて無効としたことを発表した。

●RTVスロベニアのストライキ【20日】

RTVスロベニアのジャーナリストは、5月23日に初めて実施したストライキを継続し、政治的干渉に対する抗議集会を行い、意思決定者に行動を起こすよう呼びかけた。一方、公共放送の責任者は、20日のニュース番組を極端に短くするか中止するよう命じ、職員はこの動きをストライキを弱体化させる試みとした。ストライキ委員会は、RTVスロベニアのグラフィックモフ局長とTVニュース番組のラベルニク編集長が「我々のストライキを重大に妨害した」と述べ、これは刑事犯罪であると述べた。

●司法委員会、ウクライナの戦争犯罪に関する宣言を支持【23日】

国民議会の司法委員会は、野党民主党(SDS)が提出した、ウクライナにおける戦争犯罪の不処罰との戦いに関する欧州議会の決議に関する宣言案を全会一致で承認した。同委員会は、政府が同決議案を承認した翌日、同動議を採決した。欧州議会の決議は、EUに対し、ウクライナで人道に対する罪を犯した者の訴追を支援するために必要なあらゆる手段を講じるよう求めるもの。

●クライニク氏が大統領選への出馬を表明【27日】

哲学者・精神分析医クライニク氏が大統領選への出馬を表明した。無所属で出馬するが、志を同じくする政党の推薦を受けるといふ。同氏は、「すべての人の真実と望み」のためのスペースを作るので、自身の政治は他とは異なると述べた。同氏は、哲学の博士号と文化学の修士号を取得している。同氏は現在、ジークムント・フロイト大学リュブリャナ校精神分析科の学科長を務めている。

●コスGS副党首が大統領選への出馬を表明【28日】

コス自由運動党(GS)副党首は、大統領選への立候補を正式に表明した。これまでの候補者の中で初めて議会政党の支持を受けて出馬したコスGS副党

首は、「2年間の困難な後進的な時代を経て、人々の尊厳と未来への希望を回復させた進歩的勢力の代表であることを誇りに思う」と述べた。同副党首は、道徳的権威の役割を避けた現職のパホル大統領とは違う存在になると述べた。ゴロブ首相は、「大統領職のあり方を変える」時が来たと述べた。

●政府法改正案(省庁再編案)に関する国民投票の可能性【29日】

29日、野党民主党(SDS)は、(22日に国民議会で可決した政府法改正案について)国民投票を要請するための2,500人分の有権者署名を議会に提出した。署名が正式に集計されると、国民投票の実施に必要な4万人の署名を集めるために、35日間の猶予期間が設けられる。なお、7月15日~8月31日は夏季休暇期間に当たるため、署名収集開始は9月1日以降となる。つまり、国民投票が成功しなかったとしても、新政権の省庁再編は数か月遅れることになる。

SDSは、省庁数を増やす計画に断固として反対し、法案の通過を防ぐために全ての議会による手段を使い果たした後、国民投票に訴えることとした。同党は、スロベニアのような小さな国にとって、あまりに多くの省庁を抱えることは無駄であると主張している。グリムス同党議員は、国民投票の要請を提出した理由は、燃料価格に関する現政権の「言葉では言い表せないほどの混乱」のためであるとし、「彼らがこの機能不全の政府を拡大して更に機能不全となることを想像できるか。」と述べた。また、国民投票は、追加費用を発生させないよう、10月及び11月に見込まれる大統領選或いは地方選挙と同時に行うべきだとした。

国民投票には定足数が必要であり、これまで投票率が低かったためにほとんどの国民投票が失敗したことに鑑みると、選挙と同時に行うことによって国民投票が成功する可能性は高まる。

連立与党は、国がグリーンランジションとデジタルランジションによって直面する課題により良く取り組むためには省庁再編が必要であると述べている。

サヨビッチ自由運動党(GS)議会グループ副リーダーは、「戦術的な動きや政治ゲームは進歩をもたらさないが、貴重な時間が無駄にされる。」と述べた。

●国民議会、「メディアにおける政党のプロパガンダ」の資金調達に関する調査を開始【30日】

国民議会は、「国有企業、国家機関、外国の機関または団体の資金によるメディアにおける政党政治宣伝」の違法資金調達の疑いで野党民主党(SDS)が所有する、またはSDSと関係のあるメディアを対象とした調査を開始した。同調査は連立与党が要請し、2020年3月13日から現在までの期間を対象とするこの調査は、4月24日の総選挙に向けた政党のキャンペーンへの違法な資金提供の疑いを調査するもの。

【外政等】

●3カ国の大統領、西バルカン諸国とのEU加盟交渉の加速を要請【3日】

スロベニア、クロアチア、オーストリアの大統領は、西バルカン諸国とのEU加盟交渉の加速を促し、ウクライナにおける戦争を非難した。クロアチアでの会合では、NATOの拡大やクロアチアのユーロ圏およびシェンゲン圏への加盟についても議論された。クロアチアのユーロ圏・シェンゲン圏への加盟は、3カ国にとって有益であるとの認識で一致し、歓迎された。

●スロベニア・オーストリア外相会談【6日】

6日、ファヨン外相は、シャレンベルク・オーストリア欧州・国際担当大臣（外相）を迎え、ファヨン外相就任後初の二国間会談を行った。

両大臣は、EUがウクライナとウクライナ国民に対する支援と援助を確保するために、引き続き結束と決意を示さなければならないことに合意した。

また、両大臣は、EU国境の必要な保護と内部国境管理の段階的な解除により、シェンゲン圏の効果的な機能を確保する必要性について合意した。ファヨン外相は、オーストリアの国境管理は現在の安全保障上の脅威を考慮すると不釣り合いな措置であるというスロベニアの立場を改めて表明し、国境の両側で市民の日常生活が容易になるよう、同措置が解除されることへの期待を表明した。

両大臣は、両国の利益となる近隣地域の安全と安定を確保するために、EUが一致団結して対応することの重要性を強調した。ファヨン外相は、西バルカン諸国に対し、具体的なコミットメントを伴う明確なEU加盟への展望を提供する必要性について、両国が同様の見解を共有していることへの喜びを表明した。

●スロベニア・ポーランド議会議長ビデオ会談【8日】

クラコチャル＝ズパンチッチ議会議長は、ヴィテク・ポーランド下院議長とビデオ会談を行い、ウクライナ情勢、二国間関係及び将来の協力について協議した。クラコチャル＝ズパンチッチ議長は、ヴィテク下院議長からのEU加盟国の女性議会議長グループへの参加を承諾した。

●スロベニアが国連経済社会理事国に選出【10日】

国連総会は、国連の6つの主要機関の一つであり、国連の経済・社会政策の調整を担う経済社会理事会（ECOSOC）のメンバーにスロベニアを選出した。スロベニアは、5年前に2023年から2025年任期のECOSOC理事国選挙への立候補を表明し、同国として初めての立候補であった。ファヨン外相はツイッターで、「スロベニアにとって重要な勝利」と宣言し、「おめでとう、そして外務省の同僚たちに感謝する」と述べた。

●パホル大統領のSEECFフォーラムへの出席【10日】

パホル大統領は、ミツオタキス・ギリシャ首相の招待で出席した南東欧協力プロセス（SEECF）首脳会議で演説し、「ウクライナを窮地に追いやってはならない」と強調し、西バルカン諸国へのEU拡大を促した。同大統領は、ボスニア・ヘルツェゴビナにできるだけ早くEU加盟候補国の地位を与え、その上で、同国が悪循環から脱却するために一定の改革を行うことを期待するという考えを繰り返した。また、6月末のEU首脳会合を利用して、「ウクライナの（EU加盟候補国）地位獲得プロセスを加速させ、西バルカン諸国をこの文脈に巻き込む」べきであると述べた。

同会議に出席したファヨン外相は、西バルカンの改革努力にとって、信頼できるEU拡大政策が重要であると指摘した。また、拡大政策はEUの最も有効な地政学的政策であり、ロシアのウクライナに対する侵略やEUとジョージアおよびモルドバとの今後の関係においても重要であると述べた。

●SAFの部隊、スロバキアに配備【10日】

10日、スロベニア軍（SAF）は、SAFの101人の部隊が、NATOの国際的な拡大警戒活動の一環として、スロバキアに到着したと発表した。最初の数日間は、活動のための条件を整え、可能な限り早く国際大隊戦闘グループに統合することに専念する。これには、軍の配置、スロベニア本国との連携と作戦環境の確立、装備と車両の準備、治安状況の把握が含まれる。報道発表によると、最初の段階の終了後には作戦展開が行われ、スロベニア兵は軽歩兵中隊とともに国際大隊戦闘グループ司令部の枠組みの中で活動することになる。同部隊は、車両、弾薬、武器など120トン以上の貨物とともに、スロバキアへ移動した。

チェコ、ドイツ、オランダ、ポーランド及び米国の兵士も拡大警戒活動の戦闘グループに所属している。チェコ軍のメンバーが率いるミッションの一員であるスロベニア兵は、抑止と防衛を支援するNATOの能力、対応力、相互運用性を強化することを目的に、主に戦闘訓練を行う予定。

●JBICとスロベニア輸出開発銀行の覚書署名【14日】

14日、国営のスロベニア輸出開発銀行（SID銀行）は日本のJBICとの協力のための取り決めに署名した。両銀行は、スロベニア及び第三国におけるデジタルイノベーション、クリーンエネルギー、環境及び質の高いインフラの分野で新たなビジネス機会を創出していくことを計画している。

SID銀行によれば、署名は、前田匡史JBIC総裁とダミヤン・ドリナルSID銀行総裁との間で、ペトリッチ在京スロベニア大使臨席のもとで行われた。

ドリナル総裁は、SID銀行がJBICが相互理解の覚書を結んでいる4つの欧州の開発銀行の1つとなることができ、日本とスロベニアの企業の利益のためにJBICとの更なる協力を後押ししていくと述べた。

●スロベニア・ルクセンブルク外相会談【14日】

14日、ファヨン外相はルクセンブルクのアセルボーン外務・欧州大臣と会談をした。両大臣は、両国の優れた友好関係の深化、EUの中核国間の協力の強化、西バルカン諸国への拡大、ウクライナのEU加盟への展望について議論した。

●スロベニアのウクライナ支援【14日】

ファヨン外相は、ウクライナに関する同国の取り組みについて、前政権は軍事援助に重点を置いていたが、開発・人道援助に注力することを示唆した。同大臣は、「スロベニアがウクライナを支援できる地雷除去などのプロジェクトがある」と述べた。外務省によると、戦争が始まって以来、スロベニアはウクライナに320万ユーロ相当の人道支援と約700万ユーロ相当の軍事支援を行ってきた。

●駐ウクライナ・スロベニア大使、キーウに戻る【14日】

ファヨン外相は、メンツィン駐ウクライナ・スロベニア大使は、ロシアのウクライナ侵攻開始時に首都キーウを離れていたが、同市に戻ったと述べ、この動きは「ウクライナへの重要なメッセージ」であり「大使がキーウのスロベニア大使館に戻ったことに満足している」と述べた。

●ゴロブ首相とシュミハリ・ウクライナ首相の電話会談【15日】

15日、ゴロブ首相は、シュミハリ・ウクライナ首相と電話会談を行った。両首相は、ウクライナ情勢と、ウクライナが主要議題の一つとなる次期欧州理事会について協議した。シュミハリ首相は、スロベニアのウクライナ難民に対する姿勢に対して感謝を表明し、ウクライナ領域内の地雷除去への協力を要請した。

ゴロブ首相は、ウクライナとその主権に対するスロベニアの強い支持と、和平努力への支持を表明した。また、同首相は、地雷除去におけるスロベニアの支援を約束し、国連憲章の規定に反するロシアの侵略を断固として非難した。スロベニアは国際関係の基本原則を完全に尊重しており、いかなる形の暴力も許容しない、EUの結束は極めて重要であると述べた。

ゴロブ首相はまた、西バルカン諸国へのEU加盟に対するスロベニアの強い支持とともに、ウクライナのEU加盟候補国としての地位付与に向けた努力に対するスロベニアの支持を表明した。

●ゴロブ首相のブリュッセル訪問【16日、17日】

16日～17日、ゴロブ首相は就任後初の外遊としてブリュッセルを訪問し、フォン・デア・ライエン欧州委員会委員長等と会談した。

ゴロブ首相は、フォン・デア・ライエン委員長との会談において、ウクライナにEU加盟候補国としての地位を与えることについて、スロベニアの確固たる支持を表明した。また、ロシアのウクライナ侵攻に対するEUの統一した対応の重要性を協調した。

フォン・デア・ライエン欧州委員会委員長は、ゴロブ首相との会談後、「我々は欧州という情熱を共有している。そして我々は二人ともそれをより持続可能でより繁栄したものとしたい。」とツイートした。

両者の協議は、2つの「主要なEUイニシアティブ」、すなわち、EU復興手段としても知られる次世代EU基金並びに、最近欧州委員会によって発表された「RE PowerEU」計画（ロシア産化石燃料への依存を減らし、グリーントランジションをより早期に進める計画）について特に焦点を当てるものであった。

●パホル大統領、ボスニアのEU加盟候補国としての地位の支持を要請【20日】

パホル大統領は、ラトビアで開催された三海域イニシアティブ首脳会合で演説し、23日～24日に開催されるEU首脳会議でボスニアにEU加盟国としての地位を与えるというスロベニアの提案に賛同するよう三海域EU諸国の指導者に要請した。パホル大統領は、EUの西バルカン地域への迅速な拡大の重要性を繰り返し強調し、候補国の地位がボスニアの親EU勢力を強化し、同国のEU基準への適応を加速させると確信していると述べた。

●スロベニア・ウクライナ外相電話会談【21日】

21日、ファヨン外務大臣は、クレーバ・ウクライナ外務大臣と電話会談し、ウクライナのEU加盟候補国としての地位と同国の戦後復興に対するスロベニアの支援を確約した。また、外務省のツイートによると、ファヨン外務大臣は近々キーウを訪問する予定である。

ファヨン外務大臣はツイッターで、「オープンで実りある議論に感謝する。スロベニアは、ウクライナの国民が一刻も早く再び平和な生活を送れるよう支援することを約束する。また、インフラを再建し、安定と希望を取り戻す手助けをする。」と述べた。

クレーバ外務大臣は、ツイッター上で、ウクライナのEU加盟申請に対するファヨン外務大臣の支持に感

謝すると述べ、「我々は、EUの第7次対ロシア制裁パッケージの採択を加速させる必要性に合意した。ウクライナの戦争で破壊された地域の1つの復興に参加するようスロベニアを招待した。」と述べた。

●ゴロブ首相とゼレンスキー・ウクライナ大統領の電話会談【23日】

23日、ゴロブ首相は、ゼレンスキー・ウクライナ大統領と初の電話会談を行った。ゴロブ首相は、ゼレンスキー・ウクライナ大統領との会談で、スロベニアで政権が交代しても、ウクライナに対する姿勢は変わっていないと同大統領に約束した。また、21日には国民議会が全会一致でウクライナをEU加盟候補国として認めるべきとの立場を確認したことを強調した。

ゼレンスキー・ウクライナ大統領は、ゴロブ首相の就任を祝し、スロベニアがEU統合への道を歩むウクライナを支援していることに感謝の意を表した。

●スロベニア国祭日に際しての祝辞【25日】

スロベニアの国祭日に際して、パホル大統領は、エリザベス英女王、バイデン米大統領、シュタインマイヤー独大統領、マクロン仏大統領他から祝辞を受け取った。また、フェリペ4世西国王、フィリップ・ベルギー国王、徳仁日本国天皇陛下及び、チェコ、ブルガリア、フィンランド、スイス、エジプト、ジョージア、ケニアからもメッセージを受領した。

●防衛費をGDPの2%とするNATOの目標に関するゴロブ首相の発言【29日】

マドリッドでNATO首脳会議に出席したゴロブ首相は、メディアに対し、防衛費に関するNATOの目標について、政府は6ヶ月以内にロードマップを作成する見込みであると述べた。同首相は、スロベニアの防衛費は、2030年にGDPの2%に達する見込みだが、世界情勢によりこれをさらに強化する必要があると指摘した。同首相はまた、前政権下で締結されたボクサーAPC45台の購入を含む取引の見直しは、NATOの目標の達成に大きな影響を与えないと述べた。

●ゴロブ首相、西バルカン諸国を無視しないようNATOに警告【30日】

ゴロブ首相は、マドリードでのNATO首脳会議後に、NATOが新たな抑止・防衛態勢の一環としてその東側での存在感を強化するにあたり、西バルカン諸国を見過ごさないよう警告した。首相は、「バルカン半島を見落とさない」ことが重要であり、この地域はスロベニアが存在し、そのために訓練を受けている地域であると述べた。抑止と防衛の枠組みにおいて、スロベニアは「最も貢献できるところで主に行動する」ことを望んでいると述べた。

●ゴロブ首相のシェンゲン圏に関する発言【30日】

スロベニアは、クロアチアができるだけ早くシェンゲン圏に入ることを望んでいるが、シェンゲン圏が現在機能していないため、多くのジレンマを解決しなければならないと、ゴロブ首相は述べた。「我々の立場は明確だ。シェンゲン協定が機能していないこと、これが最大の問題だ。結局のところ、オーストリアとの国境で私たち自身がこれを実感している。シェンゲンは形式的には存在するが、実施されていない」と、オーストリアがスロベニアとの国境で行っている警察のチェックについて述べた。

経済

【経済一般、指標・統計】

●OECDによるスロベニア経済成長率の予測【8日】

OECDは本年のスロベニアの経済成長率を4.6%、来年を2.5%と予測した。昨年12月に発表された予測ではそれぞれ5.4%、3.2%となっており、いずれも下方修正となった。ウクライナ情勢が一部影響している。個人消費が成長の主な材料となることが予測されているが、失業率の記録的な低さが賃金への圧力につながり、賃金上昇が更なるインフレスパイラルのリスクにつながる旨指摘されている。

●スロベニア政府10年債の利上げ【13日】

9日の欧州中央銀行(ECB)のセッションと11年ぶりの利上げの発表は、スロベニア政府10年債の利回りも押し上げ、2013年から2014年の銀行システム救済後の最高値となる2.92%まで上昇した。スロベニア政府10年債の流通市場利回りは、EUの高インフレと金融政策の制限の見通しを前に、数週間2%から2.30%の間で推移していた。

●2022年のGDP成長率見通しを上方修正【15日】

中央銀行は、スロベニアの経済成長率予測を、12月の見通しから1.8ポイント引き上げ、今年は5.8%としたが、2023年の予測は0.9ポイント引き下げ、2.4%とした。中央銀行分析研究センターのゾルコ副所長は、「経済成長は緩やかになっているが、今年の年間成長率は依然として高く、これは2021年末に向けた好ましい展開によるキャリーオーバー効果によるところが大きい」と述べた。インフレ率に関しては、今年は9%で推移した後、今後2年間で4.5%、2.3%に緩和されると予測されている。

●スロベニアの一般政府赤字、第1四半期はGDP比3.1%に減少【30日】

スロベニアは第1四半期に4億500万ユーロ、対GDP比3.1%の一般政府赤字を記録し、昨年第1四半期の赤字額の半分以下となったことが、統計局の最新データで明らかになった。一般政府収入は、税収の11.7%増と社会保障費の4.7%増を背景に、8.3%増の56億5千万ユーロとなった。一方、支出は前年同期比1.3%減の60億5,000万ユーロとなった。連結総負債は402.2億ユーロ、対GDP比75.1%となり、政府の新規借り入れにより2021年末より13.7億ユーロ増加した。

●スロベニアへの外国直接投資の増加【30日】

スロベニア中央銀行によると、昨年のスロベニアへの外国直接投資は総額184億ユーロで、前年比17億ユーロ(10.4%)増加した。外国直接投資全体の

ほぼ4分の1はオーストリアからのもので、次いでルクセンブルク、スイスと続く。昨年は1億ユーロの利益が外国人投資家に支払われ、2020年と比較して50%以上の増加となった。一方、スロベニアの昨年の海外直接投資額は78億ユーロで、2020年比11.8%増となった。

【企業、産業の動向】

●コペル〜ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業計画についての監査【8日】

会計検査院は、2015年から2020年6月末までのコペル〜ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業計画の準備と運営方法に大きな欠陥があり、政府と担当省庁がプロジェクトの制約と管理の基礎を準備する上で非効率的であったと認定した。また、政府とインフラ省はプロジェクトの監督において一部しか効率的でなかったとし、インフラ省と国営会社2TDK社に非があるとした。

●コペル港、南側岸壁の拡張工事を完了【10日】

国営港湾会社ルカ・コペルは、同社報道発表で、コンテナターミナル第1岸壁の新しい拡張工事の最後のセクションの操業許可を取得し、4,560万ユーロの投資を完了したと発表した。ナパスト同社会長は、「コンテナターミナルの拡張は北側にも続き、より大規模な投資になる」と述べた。

●コペル〜ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業・トンネル開通式の開催【13日】

コペル港とディヴァチャ鉄道ジャンクションを結ぶ新しい鉄道ルート(第2鉄道路線)の7つのトンネルのうち、最初のムリナリ・トンネルが13日に開通した。本件建設はスロベニアのコレクトルCPG社とトルコのYapi Merkezi社及びOzaltin社が請負っており、同日開催された開通式にはスロベニアとトルコのインフラ大臣が出席した。

本鉄道路線は2025年完成、2026年運航開始予定で、経費は10億ユーロ規模とされてきたが、関係者は、インフレによりその価格が最大1億ユーロ上昇する可能性があるとし唆した。

コペル・ディヴァチャ間の新路線は旧ルートとは全く違うルートを通過し、1日当たりの運航可能本数は94本から212本に、また年間輸送量を1千4百万トンから3千690万トンに増加する。

クメル・インフラ大臣は、開会挨拶の中で、本計画の長い歴史に触れ、このような重要な歴史を刻む瞬間に立ち会うことができることの喜びを表明した。また、鉄道の距離は(旧ルートの)44キロから27キロに短縮され、走行時間、環境及び地元の住民への影響も削減されるとした。

本プロジェクトの全体運営を担う国営会社2TDK社のヘウカ社長は、建設は予定よりも43日早いペースで進んでおり、ムリナリトンネルの工事費については700万ユーロの予定から10%も削減することができたと述べた。

●新政権のガソリン価格等に関する政策【15日】

15日、ゴロブ首相は、生活費高騰の危機に対応するための政府の最初の政策として、21日から1年間、高速道路外のガソリンスタンドにおいては価格マージンが規制されるが高速道路沿いガソリンスタンドの小売価格は自由化されるモデルに戻る旨を発表した。

ゴロブ首相は、石油価格は半年前にトンあたり70ユーロであったが、現在では120ユーロに値上がりしており、それがそのまま小売価格に反映されているわけではないとしつつ、「スロベニアでは以前に小売価格の規制を強制的に導入しており、そのため、現在燃料小売業者から数百万ユーロ相当の損害賠償の請求を受けている。そのような体制は全く持続不可能である。」と述べた。

新モデルにおける燃料価格はクロアチアの価格とほぼ同様だが、オーストリアやイタリアの価格よりは低くなっている。

また、15日、政府は、ディーゼル、石油、灯油、天然ガスのCO2排出税を含むいくつかの環境税を、8月17日まで一時停止した。更に、政府は、再生可能エネルギーを多く利用した発電への補助金を1年間停止し、エネルギー効率義務も停止された。

●MOLグループによるOMVスロベニア社買収についての詳細調査【23日】

2021年6月、ハンガリーのMOLグループは、OMVスロベニア社(オーストリアのOMVグループのスロベニア子会社)の92.25%の株式を取得するために、3億1百万ユーロの契約を締結した。MOLグループはその時既に、残りの7.75%の株式をクロアチアのINA社経由で保有していた。

同契約によって、スロベニア国内に53か所のガソリンスタンドを有し、3番目に大きい燃料小売業者であったMOLグループが、更に120か所のガソリンスタンドを取得することになった。

スロベニア国内の最大の燃料小売業者はスロベニア国営会社のペトロール社であり、318か所のガソリンスタンドを運営している。

欧州委員会は、同買収がスロベニアの燃料市場での競争を大幅に減少させる可能性があるとして、5月に予備調査に乗り出した。同委員会は、スロベニアに大きな燃料小売業者が2社しかなくなることは、2社間の価格調整を容易にしうるとしている。

欧州委員会はまた、新しい燃料小売業者がスロベニア市場に参入しようとする時に直面する、コスト、官僚主義及び場所等の多くの障壁に注目している。

MOLグループは予備調査中にいかなる誓約を行うことも拒否したため、欧州委員会は10月28日まで90日間の詳細調査を行うことを決定した。

●政府、高速道路でのディーゼル価格引き下げのため2つの環境税を撤廃【23日】

政府は、価格が完全自由化されている高速道路沿いのサービスステーションにおけるディーゼル車に対する2つの環境税を一時的に廃止する規則を採択した。同措置は、21日に高速道路沿いの燃料価格が自由化されて以来、1リットルあたり2ユーロを超えている高速道路のディーゼル価格を、現在1.848ユーロの高速道路外のサービスステーションにおけるディーゼル価格レベル(現在1.848ユーロ)まで引き下げることを目的としている。

●政府は航空会社10社への補助金183万ユーロを承認【29日】

経済開発・技術省は、スロベニアと世界との航空接続性を向上させるための補助金に関する公開入札で、航空会社10社(ルフトハンザ、スイスエアライン、ブリュッセルエアライン、フライドバイ、エアセルビア、モンテネグロ航空、ターキッシュエアライン、イージージェット、ウィズエア及びLOT(ポーランド航空))に約183万ユーロを配分することを決定した。選定された航空会社は、この取引の一環として、リュブリャナと他国を結ぶ700便以上のフライトを実施する予定。この資金は、8つの航空会社が提供する既存の航空路線をサポートし、リュブリャナ-ドバイ間およびリュブリャナ-ロンドン間の2つの新規路線を確立する予定。

●中国ハイセンス社子会社ゴレニエ社の伊トリエステ港への専用列車使用

(中国)ハイセンス社子会社の家電メーカー、ゴレニエ社は、伊トリエステ港から(工場のある)ヴェレニエ市に原材料及び部品を運搬するための新しい専用列車を提供される。ハイセンス社所有の同列車による最初の運搬が28日に行われた。

ハイセンス・ヨーロッパ社のハンソン・ハン社長は、「新規路線は我々のヴェレニエ工場の輸送システム改善と安定したサプライチェーンの維持のために非常に重要である。」と述べた。

将来的にはこの新しい列車は、ヴェレニエ工場で作られた製品をトリエステ港から世界に運搬されることになるだろう。

ゴレニエ社は、トリエステ港は物流会社の(中国)COSCO社が選択したもので、スロベニアのコペル港

が同社にとって主要港であり続けることに変わりはないとしている。

治安

●強盗事件【10日】

10日、リュブリャナ・ヴィッチのショッピングセンター付近でスリ事件が発生した。被害者は、リュックサックに入れていた財布を盗まれ、約800ユーロの被害が発生した。警察は、多額の現金を引き出す際は十分警戒するように注意を呼びかけている。

●強盗事件【13日】

13日、イゾラに住む女性から強盗に入られたという通報があった。被害者によると、二人組の男がアパートに押し入り、銃で被害者を脅して現金を奪い、逃走したとのこと。

●窃盗事件【24日】

24日、リュブリャナのモステとポルホフ・グラデツで、2件の窃盗事件が発生した。顔にマスクをした二人組の犯人は高齢者をターゲットにし、一人が電気通信サービスの技術者を装って被害者に話し掛け、被害者が気をそらした隙にもう一人の犯人が侵入して金品などを盗んだ。

社会・文化・スポーツ

【文化・生活等】

●リュブリャナにコンピューター・ミュージアムがオープン【18日】

シシュカ地区にある新しいコンピュータ博物館が、コンピュータソフトウェアなどに焦点を当てた展示で開館。この博物館は、ヨーロッパのこの地域で最大のコンピュータ界コレクションの1つを持つことが特徴。本コンピュータ博物館は、2004年にNGOとして活動を開始し、今回の博物館開設に至った。

●世界最古のブドウの木博物館がマリボルにオープン【17日】

マリボルに、世界最古のブドウの木とブドウ栽培の歴史に特化した博物館がオープンした。世界最古のブドウの木博物館は、マリボルの歴史地区レントにある元冷蔵倉庫をEUの資金で改修したものである。

●スロベニアの研究者が南アフリカのブドウの木の病気対策に貢献【15日】

国立生物学研究所のスロベニア人女性研究者チームが、南アフリカのブドウ園で最も大きな被害をもたらしているブドウの病気、フラベッセンス・ドーレを引き起こすファイトプラズマの特定の株を検出するテストを開発した。同研究所によると、世界中のワイン生産者が、ヨコバイが媒介する異なる系統のファイトプラズマによって引き起こされるフラベッセンス・ドーレの被害を受けており、現在のところ、特効薬となる防御策は見つかっていない。

●ダイアトニック・アコーディオン・欧州選手権で優勝【29日】

アコーディオン奏者ダナヤ・グレベンツ氏は、イタリアで行われた第18回ダイアトニック・アコーディオン欧州選手権で、審査員の100/100点の評価を得て優勝した。彼女は、オリジナル曲の最も革新的なアレンジを認められ、年齢別グループも1位を獲得し、本年の欧州ダイアトニック・アコーディオン絶対王者としてトロフィーを受け取った。彼女はすでに過去に、ジュニア・ダイアトニック・アコーディオン世界チャンピオンに輝き、国内選手権、国際コンクールで金メダルを獲得するなど、素晴らしい結果を残している。

●リュブリャナでE-bikeのレンタルシステムが利用可能に【17日】

スロベニアで初めて自転車シェアリングシステムを導入してから10年以上が経過し、リュブリャナにも電子自転車レンタルシステムが導入され、25のドッキングステーション、75台のノマゴ・バイクが利用できるようになった。リュブリャナは、旅行・交通会社であるノマ

ゴが運営するe-bikeレンタルシステムを導入した12番目の自治体となった。e-bikeのバッテリー容量は60kmから80km。30分間のレンタル料金は1.3ユーロで、さまざまなプランが用意されている。

●第1四半期に旅行者数が50%以上増加

スロベニアの2022年第1四半期は、全体の旅行件数が前年同期比で50%以上増加したと統計局が報告し、15歳以上のスロベニア人の22%が少なくとも1回の個人旅行を行った計算となる。

●スロベニアの新生児数、昨年は1%増加【25日】

昨年スロベニアで生まれた子どもの数は計1万8984人で、2020年に比べて217人、1%増加した。統計局の報告によると、第1子出産時の母親の平均年齢は29.6歳、いずれの出産時の平均年齢も31.1歳だった。昨年の新生児は男子が9822人、女子が9162人で、2021年の住民千人あたりの新生児数は9人で、前年の8.9人から増加した。1日平均52人の子どもが生まれ、2020年より1人多くなっている。双子の数は264組で、男子が84組、女子が91組だった。

【スポーツ】

●ボクシングのコージンがWBFライトミドル級世界チャンピオンのタイトルを獲得【5日】

スロベニアのエマ・コジン(23歳)が、ドイツのアーレンで行われたWBF女子ライトミドル級でハンガリーのシルビア・サバドスを破り、世界チャンピオンとなった。彼女が世界チャンピオンタイトルを勝ち取るのは、この階級で3つ目。彼女はインタビューに対し「1ラウンド目ですでに、勝てると感じた」と語った。

●体操競技、キセレフ、ベラクがコペルでメダル獲得【18日】

コペルで開催された体操ワールドカップの跳馬で、スロベニアの体操選手、ティヤーンシャ・キセレフ選手が銀メダル、テヤ・ベラク選手が銅メダルを獲得した。もう一人のスロベニア人選手、ルチャ・ハビアル選手は、段違い平行棒で惜しくも4位に入賞。

●欧州アーチェリー選手権大会でスロベニアが銅メダル獲得【12日】

ミュンヘンで開催された欧州アーチェリー選手権大会のリカーブボウの種目で、スロベニア女子チームが銅メダルを獲得した。銅メダル決定戦でデンマークを5対3で破り、スロベニアの女子リカーブボウアーチャーとしては、2005年アルメリアの地中海大会以来最高の成績となった。

● ツアー・オブ・スロベニア、テレビ中継で大観衆を魅了【24日】

6月開催された自転車ロードレース「ツアー・オブ・スロベニア」は、約30万人が直接観戦し、ユーロスポーツTVネットワークでは昨年より150万人多い約1100万人が観戦するなど、素晴らしい視聴者数を記録した。また、ソーシャルネットワーク上でも大きな話題となった。

● 男子ハンドボール、世界選手権へのワイルドカードを獲得【28日】

2023年の男子ハンドボール世界選手権への出場権を逃したスロベニア代表は、国際ハンドボール連盟（IHF）のワイルドカードにより、スウェーデンとポーランドが主催する大会に出場することになった。IHFは、欧州内の5つのワイルドカード候補の中からスロベニアとオランダを選択した。

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282、Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧ください。

https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_si/Zivljenje_na_Japonskem.html

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。また、ご提出いただいている「在留届」について、住所変更や同居家族の帰国等、記載事項に変更が生じた場合には変更届を、第3国への転出や日本への帰国の際には転出・帰国届をご提出いただきますようお願いいたします。

【外務省オンライン在留届】: <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>

●新型コロナウイルス: 引き続き最新情報を入手し、感染予防に努めてください。当館HPでは、新型コロナウイルスに関するスロベニアの出入国規制などについてまとめたものを公開していますのでそちらもご覧ください。なお、規制は突然変更となる場合がありますので、最新情報についてはスロベニア当局にご確認いただくようお願いいたします。

【当館まとめページ】https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00027.html

●当地での在留許可取得や在留許可延長手続きの際に必要な警察(犯罪経歴)証明については、申請から交付までに約2~3か月かかります。お手続きに必要な期間をあらかじめ考慮していただき、余裕を持って申請を行っていただくようお願いいたします。

【参考情報】

1. 外務省海外安全ホームページ

本サイトでは、各国・地域での新型コロナウイルスの発生状況、新型コロナウイルス(日本からの渡航者・日本人に対する各国・地域の入国制限措置及び入国・入域後の行動制限)等の情報を掲載しています。

<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

2. たびレジ簡易登録

本サービスは、メールアドレスとメール配信を希望する国・地域を選択するだけで、当該在外公館から領事メールを受信することができます。ぜひご活用下さい。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/simple/register>

3. スロベニア国立公衆衛生局は、国内状況や感染予防の方法等について公開しています。

<https://www.njz.si>

(主にスロベニア語)

4. スロベニア政府が、新型コロナウイルスに関する特設サイトを開設しました。コロナウイルスに関連した保健省の特設電話番号はこちらに掲載されています。

<https://www.gov.si/en/topics/coronavirus-disease-covid-19/>

5. 新型コロナウイルス感染症に備えて ~一人ひとりができる対策を知っておこう~ (首相官邸)

<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/coronavirus.html>

6. 新型コロナウイルス感染症に関する情報について(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

7. リュブリャナ空港ホームページ

<https://www.fraport-slovenija.si/en.html>

8. スロベニア政府の下記のツイッターアカウント等で、随時情報発信が行われておりますので、こちらもご確認ください。

- 政府(英語): <https://twitter.com/govslovenia>
- 政府(スロベニア語): <https://twitter.com/vladars>
(英語版と若干内容が異なります。)
- 外務省: <https://twitter.com/mzzrs>
(主にスロベニア語)
- 保健省: <https://twitter.com/minzdravje>
(主にスロベニア語)

【広報文化班からのお知らせ】

●国際交流基金海外巡回展「構築環境:もう一つの日本ガイド」開催

日本の各都道府県に現存する建築、土木、ランドスケープなど80点を取り上げ、写真とテキストと映像で紹介いたします。地理的に多様で、多くの自然災害に見舞われてきた日本において、人々が自然環境とどのように対話し格闘してきたか、どのように地域性を継承し創造してきたかという観点から、日本各地の建造物を取り上げて、従来あまり紹介されてこなかった日本の一面を紹介する点字となっております。入場無料です。

○開催期間:7月11日(月)~8月20日(土)

○会場名:Cankarjev Dom, Prešernova cesta 10, 1000 Ljubljana

○主催者/共催者:当館、国際交流基金、Cankarjev Dom、Centre for Architecture Slovenia

○特設 HP: https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00617.html

●赤石路代漫画原画展開催中

漫画家として長年活躍されている赤石路代先生の漫画原画展が開催中です。

○開催期間:8月末日まで

○会場:Knjižnica Šiška, Trg komandanta Staneta 8, 1000 Ljubljana

○特設 HP: https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00609.html



(c)赤石路代

●日スロベニア外交関係樹立30周年記念絵画交流展「日本スロベニア Art-《紡がれる美》2022 展」開催中

これまでに現代アートを通じて、日本とスロベニアの交流を続けてきた、両国の現代アーティスト計22名の作品(絵画、オブジェ等)を、リュブリャナ市タウンホールにて展示しております。入場無料です。どうぞ足をお運びください。

○開催期間:7月27日(水)まで

○開館時間:毎日 8時~20時

○場所:リュブリャナ市庁舎内アトリウム(住所:Mestni trg 1, Ljubljana)

○主催・共催

在スロベニア日本国大使館、リュブリャナ市、公益財団法人メセナかがわ・濱野年宏芸術交流協会、美術団体 RYU

○後援

スロベニア科学芸術アカデミー、リュブリャナ大学美術デザインアカデミー、スロベニア美術協会連盟

○特設 HP: https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00616.html

●スロベニア語字幕付 Japan Video Topics 配信中

当館 YouTube チャンネルにおいて、日本の文化や技術を紹介する Japan Video Topics のスロベニア語字幕版 (英語音声)を配信しております。

Embassy of Japan in Slovenia – YouTube

●最新情報は、当館フェイスブックでチェック！

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia/>